猪高の森自然観察だより　10 月号

開催日時:2022 年 10 月 23 日(日)　9:30～12:00
天候:晴　　気温:最低 15. 7℃、最高 25. 1℃(名古屋に於いて)
テーマ:木の実・草の実・赤トンボ
参加者構成：一般 19 名（内 NACS－J 指導員 3 名）
コース予定:森の集会所 → シダレザクラの里 → 塚の杁池堤体→ 畑 → 森の集会所

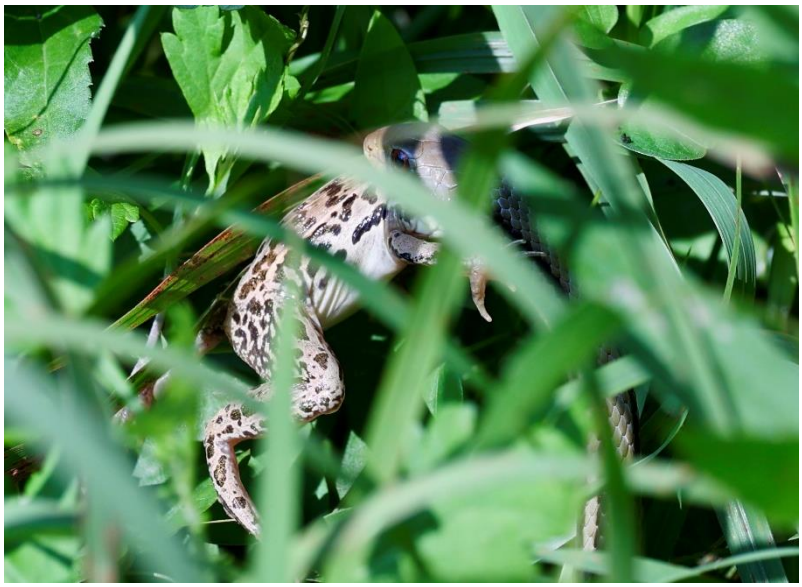
ようやく、秋らしい涼しさになりつつありますが、まだ、不安定な部分もあり、日中と朝晩の温度差が大きくなってきました。今回のコースは、比較的短い距離をゆっくりと巡るようにしました。
それでも、内容は十分と思っています。(画像は別の日のものも含んでいます)

〇まず、入口ではジョロウグモを観察しました

ジョロウグモは、大体がオスとメスが同居しています。画像の中心に居るのがメス、その上方にいるのがオスです。メスはオスよりはるかに大きく、オスは交尾のためにチャンスを伺っている状態です。
　オスはうっかりすると、メスに食べられてしまうために、メスが獲物を捕り満腹状態か、脱皮をしたばかりで、静かに休んでいる時にしか近づくことが出来ません。
　ジョロウグモの巣は横から見ると３層構造になっていますので、機会があれば見てください。
　これから、卵を産みその卵の状態で、冬越しをします。成虫はこの秋で一生を終えます。

〇ナガサキアゲハの羽化したてを見つけました。
　とてもおとなしい状態で見つけたので、弱っているのではないかと、怪しんでいました。でも、翅の状態も良く、そのうちに元気になって飛び回るようになったので、これは、羽化したてであろうと判断しました。
　とても大きな、南方系の蝶で、徐々に北に分布を広げています。

〇シダレザクラの里でシマヘビを見つけました。



今回のハプニングです。

ちょっと分かりにくいですが、**シマヘビ**がト**ノサマガエル**の頭を咥えて、今まさに飲み込もうとしているところです。

冬になれば、ヘビもカエルも冬眠をします。この時期に栄養を十分に取っておかなければなりません。自然の理（ことわり）の世界とは言え、一生懸命に生きることは、厳しいものを感じざるを得ません。

このシマヘビはこの後人の気配を感じたせいか、逃げ出し、その途中でカエルを離してしまいました。悪いことをしてしまいました。ごめんね。シマヘビさん！

（このシマヘビは胴の部分に膨らみがあり、すでに何かを呑んでいたようです。）

〇こんな素敵なデザインのカメムシもいます

名前は**モンキツノカメムシ**。

カメムシというと「臭いにおいのする虫」と思われ、嫌われがちな虫ですが、人にとって臭いにおいを出すのはごく一部、大変種類の多い仲間です。

ツノカメムシの仲間は肩（？）の部分に出っ張りのある種類が多いですが、細かい体の部分がカメムシ科と異なるためにツノカメムシ科に分けられています。

モンキツノカメムシの背中の黄色い紋がハート（💛）型になっている種類があり、エサキモンキツノカメムシと呼ばれ別種になります。

〇オオセイボウの青色が美しい！

虫のあまりお好きでない方もこの青色の美しさを是非とも楽しんで頂きたい！

いわゆる、構造色と言われる色でほかには正倉院の玉虫厨子に使われている「タマムシ」が代表的です。オオセイボウは寄生バチの仲間で、スズバチやトックリバチの巣に産卵をします。

〇実の色づきが進み、虫たちも冬の佇まいを見せ始めています。

左は、**セイタカアワダチソウ**と**アサギマダラ**。アサギマダラは2,000㎞を旅した個体の記録もある蝶です。

右は**クズ**の花と**イチモンジセセリ**。

左は、**コカマキリのメス**。卵を産むと成虫はその一生を終わります。
右は、**ウラギンシジミのオス**。その名の通り翅の裏側が銀白色です。成虫で冬越しします。

左は、**カラスウリ**の熟果
右は、**ミヤマガマズミ**の熟果。
樹や草の実の赤い色は、鳥たちに見てもらい、食べてもらって種を遠くに運んでもらうため。昆虫にはこの赤い色は判別出来ないそうです。

左は、**タンキリマメ**の熟果。「痰切豆」の意味ですが、効能は不明です。
右は、**イソノキ**の花と実。この時期に花を求める虫たちが多数種集まって来ます。

左は、**アオツヅラフジ**の実。熟すと青紫色に美しく色づきます。中の種は、化石のアンモナイトの形をしています。
右は、**センリョウ**の実。お正月の生け花に良く使われています。

左は、**サカキ**の実。神棚に捧げられる樹です。
右は、**ムラサキシキブ**の実。かすかに甘い味がします。

左は、**ヘクソカズラ**の実。独特のにおいが全草からするので敬遠されがちですが、中々可愛らしい花が咲きます。
右は**ナンテン**の実。「難を転ずる」の語呂合わせから庭木によく使われます。

左は、**ナワシログミ**の花。常緑のグミの一つで、春の苗代を作る頃に熟するのでこの名があります。
右は、**ツワブキ**の花。若葉の茎を食用にします。

〇秋も刻々と深まり、猪高の森の姿も変わっていきます。

左は、**ヒガンバナ**の葉。花と葉が同時に見られない為「葉見ず花見ず」の俗称もあるように、９月の開花は２週間ほどで終わり、次にこのような葉が出、冬を過ごし、春にはこの葉も枯れて、休眠期に入ります。

右は、11 月 3 日に写した**ケヤキ**の紅葉です。まだ、充分ではありませんが、徐々に色づいて来ています。

左は、１０月３０日に井堀の棚田で行いました、「脱穀作業」の１場面です。

この棚田は農薬・化学肥料を一切使用していないので、カエルやバッタ、鳥たちが豊富におり、観察グループの良いコースになっています。

次回観察会は　１１月２７日（日）

森の集会所集合　9：30～　です。